

2004年12月3日

中山文部科学大臣 様

かながわみんとうれん
川崎市川崎区桜本 1-8-22
TEL044-288-2997
共同代表 大石文雄／金秀一

申入れ書

新聞報道によれば、11月27日、中山文部科学相は歴史教科書の問題で以下のような許せない発言をしました。

「極めて自虐的でやっと最近、いわゆる従軍慰安婦とか強制連行とかいった言葉が減ってきたのは本当に良かった」。「日本の教科書は政治家が悪いんだと思うが、極めて自虐的な『日本は悪いことばっかしてきた』というもので満ち満ちていたときがあった。これは何とか直さないといかんということでやってきた」と説明し、さらに「どの国の歴史にも光と影はある。悪かったことは反省しないといけないが、すべて悪かったという自虐史観にたって教育だけはしてはいけない。これからの日本を生きる子どもたちに、自分たちの民族や歴史に誇りを持って生きていけるような教育をすることが大事だ」。

中山文科大臣は、歴史教科書から強制連行などの記述の削除を求める運動をしている自民党有志の「日本の前途と歴史教育を考える会」の座長を務めていたことのある人物であり、今回の発言はまさに確信犯です。

「従軍慰安婦」、「強制連行」は既に国際的な議論および司法判断でも認知されている歴史事実であり、学会においても揺るぎない史観です。

私たちは、現役の文科大臣が個人的と弁明しながらも、このように歴史事実を無視した発言をすることは看過できません。

私たちは、来年度教科書採択がある中、今回の発言の影響は多大であると考えています。したがって、大臣の発言の撤回と謝罪を求めます。また、このような歴史観をもつ人物が現役の文科大臣の任をまっとうできるはずがありません。早期の辞任を要求します。